

2008年3月17日

確認調査結果説明会
—質問要旨—

1. 対原山教授：

報告書は、「調査域の神城断層は姫川にそって伸びており、ごみ処理施設建設候補地方向に延長している可能性はほとんどないといえる。」また、「姫川を斜行し候補地方向に伸びることが懸念された副断層は、変異が連続せず、少なくとも主断層を横切ってさらに西に延長する可能性はないと判断される」と言っています。そこで質問です。

- 1) (1) この調査報告書には、調査結果に基づく施設建設の妥当性についての言及がありません。理由をお聞かせください。もし、それは依頼された仕事の範囲を超えるものとお考えならば、それはデータを提供することを第1の仕事と考える技術者の思想の反映であって、研究者としては不十分な対応だと考えます。
(2) 原山チーム以外に今回の調査に参加したチームはいませんが、原山チームの調査だけで、確認調査の客観性が担保されているとお考えでしょうか。そのようにお考えなら、その理由をお聞かせください。
- 2) この調査は神城断層の存在を認めています。その断層に起因する地震が発生した場合のその候補地への影響は心配するほどのものではないとお考えでしょうか。そのようにお考えでしたら、その理由をお聞かせください。ちなみに、糸魚川—静岡構造線断層帯に起因する地震について、文部科学省の地震調査研究推進本部地震調査研究会は、今後30年間の発生率を14パーセントと推計しています。その数字は、他の地域と比べ断トツです。
- 3) 3月11日付の読売新聞が伝える名古屋大学チームの調査は、今後小谷村から松本までの50キロ以内でひずみの起きる可能性を伝えています。その場合、糸魚川・静岡構造線断層帯でM8クラスの巨大地震が発生すると警告しています。この名古屋大学チームの調査の特徴は、今後ひずみが起こるとされる地域の範囲を特定化したところにあるとされています。この報道と報告が正しければ、問題は候補地飯森に向かって副断層が伸びているかどうかではなく、かくのごとく危険が予測されるところにわざわざごみ処理施設を建てるのが常識を逸脱していないかどうかです。

どうお考えですか。

2. 対連合長：

1) この調査結果を基に、候補地飯森にごみ処理施設を建設する上での障壁のひとつが除去されたとお考えですか。もしそうなら、その理由をお聞かせください。もし再検討する場合は、いつどのようにして検討結果を公表していただけますか。

2) 某研究者は、「地方自治体の発信する情報は、ともすると自己防衛が過剰になりもっとも知りたい部分が削除あるいは曖昧とされる傾向がある」とのべています。連合が用意した説明会用の資料（たとえば、平成 19 年 2 月 26 日付の資料）は、(主)活断層の存在について「不確か」と記述しています。今でも(主)活断層の存在は「不確か」とお考えですか。もし「確か」であるとお考えなら、説明資料を訂正すべきだと思いますが、いかがですか。

〔中村 敬〕